主体性コモン・ルーブリック

主体性を育むための目標および評価指標［2023 改定版］

指標分類	指標項目	ステージⅣ	ステージⅢ	ステージⅡ	ステージⅠ
［指標分類 A］ ＜日常的行動＞ に関する資質能力	指標項目 A－(1) やりたいことや、やるべきことを見つける力	状況に対して、自分の興味や適性を見極め、自己実現のイメージをもって、それに向かう自分の行動の方向性を具体的に見出すことができる。	状況に対して、自分の興味や適性を考え、自己実現のイメージをもって、それに向かう自分の行動を構想することができる。	目の前の状況を自分のこととしてとらえ、やりたいことややるべきことを見つけることができる。	必要感をもって、身近な環境(対象や人)にかかわろうとすることができる。
	指標項目 A－(2) 考えたことを実行する力	状況に応じて、目標・成果を具体的にイメージしながら、実現する方策を立て、実行することができる。	状況に応じて、やりたいことややるべきことを適切に取捨選択し、実行することができる。	状況を自分なりに捉え、やりたいことややるべきことを考えて実行することができる。	自分なりの目的をもって、身近な環境(対象や人)にかかわろうとすることができる。
	指標項目 A－(3) 継続して取り組む力	自ら設定した目標に対し、必要に応じて方向性を修正しながら、発展的に取り組み続けることができる。	自ら設定した目標に対し、自分の課題を意識しながら、継続的に取り組み続けることができる。	自分のやりたいことやるべきことに向かい、取り組み続けることができる。	自分のやりたいことに向かって繰り返し挑戦することができる。
［指標分類 B］ ＜課題解決＞ に関する資質能力	指標項目 B－(1) 課題を自ら設定し、その解決のための方法を見出す力	社会の課題を認識し、それらを多面的・論理的・批判的に分析し、具体的な解決のための方策を根拠をもって見出そうとすることができる。	身近な社会の課題を認識し、それらを整理・分析し、解決のための方策を経験や知識、調べ学習などから見出そうとすることができる。	身の回りの課題を認識し、それらの原因などを自分なりに考え、解決のための方策を、思いついたり、考えたりすることができる。	やりたいことをする中で、課題を見つけ、よりよくしようと思ったり、どうすればよいか考えたりすることができる。
	指標項目 B－(2) 課題解決を実行・検証する力	社会の課題の解決のために、他者と協働的に取り組み、その実践に対して多面的に評価・分析することができる。	身近な社会の課題の解決のため、課題を整理・分析して取り組み、その実践を振り返ることができる。	身の回りの課題の解決のため、自分なりに考えて取り組み、その実践を振り返ることができる。	やりたいことをする中で、見つけた課題に対し、身近な人と一緒に手立てを考えたり、試行錯誤することができる。
［指標分類 C］ ＜価値の形成＞ に関する資質能力	指標項目 C－(1) 自分のよさを認める力	自分の特性や資質、集団における役割などを認識し、それらを積極的に活かすことの意味や価値を見出すことができる。	自分の特性やよさを認め、他者との共通点や相違点を認識したうえで、自分自身に意味や価値を見出すことができる。	自分の特性やよさに気付き、肯定的に受け入れ、自分自身に意味や価値を見出すことができる。	身近な人にありのままの自分を出したり、認められる喜びを感じることができる。
	指標項目 C－(2) 自分の見方・考え方をもつことができる力	自分の経験や様々な情報、学問的知識などをもとに、対象や事象を多面的に捉えるものの見方・考え方を持つことができる。	自分の経験や様々な情報などをもとに、対象や事象を冷静に捉えるものの見方・考え方を持つことができる。	自分の経験や学んだことなどをもとに、対象や事象を捉えるものの見方・考え方を持つことができる。	自分の経験などをもとに、対象や事象を捉えるものの見方・考え方を持つことができる。
	指標項目 C－(3) 自らの経験・活動もしくは課題を振り返る力	自分の経験や活動もしくは課題を客観的に振り返り、論理的に分析・考察したものから、新たな仮説を設定することができる。	自分の経験や活動もしくは課題を客観的に振り返り、論理的に分析・考察することができる。	自分の経験や活動もしくは課題を客観的に振り返ることができる。	自分の経験や活動もしくは課題を振り返ろうとする姿が見える。
［指標分類 D］ ＜協働組織形成＞ に関する資質能力	指標項目 D－(1) コミュニケーションをとろうとする力	多様な集団などとの関係において、相手の立場に立って、意見や思いを積極的に伝えたり、他者からの意見などを共感的に受け入れたりすることができる。	身近な他者と関わる中で、自らの立場などを考え、意見や思いを積極的に伝えたり、他者からの意見などを受け入れたりすることができる。	身近な人と関わる中で、意見や思いを伝えたり、それに対する他者の反応を受け入れたりすることができる。	身近な人に自分の思いを伝えたり、身近な人の思いを聞いたりすることができる。
	指標項目 D－(2) 他者を尊重する力	自分と他者との違いの意義を理解し、他者の存在や尊さや多様性を認めることができる。	自分と他者との違いを肯定的に受け入れ、他者を積極的に認めることができる。	自分と他者との違いを認識し、他者を認めることができる。	自分と友達や身近な人との違いに気づき、認めることができる。
	指標項目 D－(3) 合意形成する力	異なる立場の意見を理解し認め合ったうえで、目的や目標に応じて多面的に議論し、与えられた条件の中で最も良い考えになるよう合意形成することができる。	複数の立場からの多様な意見を理解したうえで、目的や目標に応じて合意形成することができる。	自分の意見を持ち、また他者の意見も肯定的に受け止めながら、意見をまとめていくことができる。	自分の考えを伝えたり、友達の話を聞いたりしながら、遊びや生活をつくっていくことができる。
［指標分類 E］ ＜公共意識＞ に関する資質能力	指標項目 E－(1) 社会の一員としての自己を認識する力	社会の中での自分の置かれた環境を客観的に理解し、自分の役割とその社会的意義を理解することができる。	身近な社会の中での自分の置かれた環境を理解し、自分の役割を認識することができる。	身近な他者などにとっての自分の存在に気づき、自分の役割やできることを考えることができる。	集団の中のひとりとして生活しようとすることができる。
	指標項目 E－(2) よりよい社会の実現のために貢献しようとする力	社会の課題を理解し、その問題の背景を考えながら、解決のために取り組み、その社会的な意義を感じることができる。	身近な社会の課題を捉え、その解決のために取り組み、その意義を感じることができる。	身近な他者のために行動することができ、その喜びや達成感を感じることができる。	自分のことだけではなく、クラスや園のために行動しようとすることができる。

主体性コモン・ルーブリックの見方

主体性コモン・ルーブリックは、総合的な学習の時間や探究の時間、行事や教科学習等、あらゆる教育活動において**「主体性の育成」の視点で目標を設定する際の指標**として活用することを目的としています。

このルーブリックでは、**「主体性」を構成する資質能力を、おおきく5つの指標に分類**しています。さらにその指標をそれぞれ**2～3、あわせて13の指標項目**に分けています。その項目を、**Ⅰ～Ⅳの4つのステージ**に分けて、求められるこどもの姿で現しています。ステージⅠは主に就学前児童に求められる内容、ステージⅡは小学校卒業段階、ステージⅢは中学校卒業段階、ステージⅣは高等学校卒業段階に相当します。ただし、これらは厳密に学齢に対応したものではなく、あくまでもそれぞれの資質能力の伸長の段階の目安であり、例えば中学生であればすべてステージⅢを目標とするのが正解ではありません。また、特別支援学校（知的障害教育）などでは、発達年齢と生活年齢（実年齢）を考慮してステージ項目を選択する必要があります。

主体性コモン・ルーブリックの活用（ローカライズ）

主体性コモン・ルーブリックは汎用性のある基本的な内容であるため、そのまま評価指標として用いるのではなく、**校園種や学習内容に合わせて個別のルーブリック等の評価指標に具体化（ローカライズ）することを想定しており**、その方法には大きく2つの方法があります。

1つはⅠ～Ⅳの段階はそのままで、内容をより具体の場面の姿に記述しなおすという方法です（図 1）。これは、特別支援学校や校園を貫く長期的な成長を想定した目標設定に適していると考えられます。

もう1つは、あるステージの指標を基本に、それをさらに実際の評価にそくして分けていくという方法です（図 2）。例えばステージⅢを中学校の指標とした場合、その達成度をさらに A～C の評価段階に分けていくという方法で、実際の評価につなげる場合はこちらが中心となります。

上記は別の個別ルーブリックを作成する過程を述べましたが、ローカライズが必ずしも別のルーブリックを作成することを必要とするとは限りません。学習プログラムや場面に合わせて柔軟に活用することが可能です。

主体性コモン・ルーブリック

		ステージⅣ	ステージⅢ	ステージⅡ	ステージⅠ
指標分類 A	指標項目 A－（1）	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□
	指標項目 A－（2）	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□

個別具体の内容に書き換え

内容を絞った個別ルーブリック

		ステージⅣ	ステージⅢ	ステージⅡ	ステージⅠ
個別学習プログラムの評価指標	指標項目 A－（1）	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□
	指標項目 A－（2）	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□

図1「主体性コモン・ルーブリックのローカライズ①」

主体性コモン・ルーブリック

		ステージⅣ	ステージⅢ	ステージⅡ	ステージⅠ
指標分類 A	指標項目 A－（1）	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□
	指標項目 A－（2）	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□

個別具体の内容に書き換え

対象と内容を絞った個別ルーブリック

		A	B	C
個別学習プログラムの評価指標	指標項目 A－（1）	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□
	指標項目 A－（2）	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□	□□□□□□□□ □□□□□□□□

図2「主体性コモン・ルーブリックのローカライズ②」

各校園種のローカライズの観点

幼稚園：個々の発達に応じたローカライズ

小学校：各学年の児童の実態に応じたローカライズ （キーワード：主体性・客観性・とらえなおし）

中学校：ステージⅢの内容を中心にローカライズ （キーワード：客観性・論理性・主体性・協働力・他者理解・社会性）

高等学校：ステージⅢ／Ⅳの内容を中心にローカライズ （キーワード：客観性・論理性・主体性・協働力・他者理解）

特別支援学校：個別の発達段階や学習プログラムに応じてローカライズ ［指標項目 C－（3）のステージⅠ～Ⅳをひとまとまりのサイクルととらえる］

主体性コモン・ルーブリック
こどもの主体性を育む教育目標と評価指標［2023 改定版］

2025 年 3 月 発行
大阪教育大学附属幼稚園
大阪教育大学附属平野小学校
大阪教育大学附属平野中学校
大阪教育大学附属高等学校平野校舎
大阪教育大学附属特別支援学校